

速報

九州のカスミザクラの分布と野生化の可能性*1

勝木俊雄*2

勝木俊雄：九州のカスミザクラの分布について 九州森林研究 75：125－128, 2022 バラ科サクラ属のカスミザクラ (*Cerasus leveilleana*) は、北海道から四国のほか、韓国や中国などにも広範囲に分布する種である。長崎や熊本・大分などに分布するとして文献も見られるが、九州の分布については分布しないとする見解が一般的である。そこで、改めて文献資料を精査するとともに、標本庫および現地での調査をおこない、九州のカスミザクラの分布について検討した。その結果、熊本や大分などの複数箇所でカスミザクラの他、オヤマザクラやオオシマザクラなどの植栽あるいは野生化個体を確認した。中でも、熊本県相良村、大分県宇佐市・玖珠町・九重町・別府市では、複数個体が二次林などに見られ、野生集団と推定された。ただし、いずれのカスミザクラの集団も極めて個体数が少なく、本来の自生集団であるのか、詳細な検討が必要と考えられた。

キーワード：カスミザクラ、天然分布、野生化、標本

I. はじめに

バラ科サクラ属のカスミザクラ (*Cerasus leveilleana* (Koehne) H.Ohba) は、北海道から本州・四国のほか、韓国や中国など広範囲に分布する落葉高木種である(北村・村田, 1979; 大場, 1989; 川崎ほか, 1993; 池田ほか, 2016; Global Biodiversity Information Facility, 2021 など)。九州の分布については、まったく分布しないとする見解が多い(倉田, 1976; 川崎ほか, 1993 など)。しかし、長崎県や大分県・熊本県などに分布するという見解もみられる(星野, 1998; 初島, 2004; 荒金, 2006; 勝木, 2009; 今村・今村, 2015 など)。三好(1921)がヤマザクラ (*C. jamasakura* (Siebold ex Koidz.) H.Ohba var. *amasakura*) とカスミザクラを区別していなかったことが象徴しているように、カスミザクラは50年ほど前までヤマザクラと区別されなかった(勝木ほか, 2018)。このため同定間違いがきわめて多く、全国の標本庫において間違った同定結果のままとなっていたり、文献情報においてカスミザクラとヤマザクラが混同されていたりする事例が見られる(勝木, 2009)。以前は識別形質として葉柄や花柄などの有毛性しか重視されなかったが、カスミザクラは葉身が倒卵形で裏面が淡緑色、葉縁は粗い鋸歯、花柄の苞は倒三角形であることに対し、ヤマザクラは葉身が長楕円形で裏面が帯白色、葉縁は細かい単鋸歯、苞は長楕円形である(池田ほか, 2016; 勝木ほか, 2018)。これらの形質を用いることで、花や葉単独でも観察に適切な部位があれば、容易に識別が可能である。

九州のカスミザクラの分布について、見解の相違が見られる原因として、こうした過去の分類体系の誤解によって生じている可能性が考えられる。そこで、改めて九州のカスミザクラの分布に関する文献資料を精査するとともに、主な植物標本庫の標本を調査し、さらに生育地での現地調査をおこなうことで、九州のカスミザクラの分布について検討した。

II. 調査地と方法

文献資料については、各都道府県の植物誌やHPなどで公開されているレッドデータリスト、一般書、雑誌など、公開されている入手可能な文献から、カスミザクラの分布に関する情報を抽出した。

標本庫については、九州大学総合研究博物館(FU)と福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター、熊本県博物館ネットワークセンター、鹿児島大学総合研究博物館(KAG)に所蔵されているサクラ属のさく葉標本を閲覧し、カスミザクラが存在するか調査した。

現地調査については、2021年5~10月に文献などで入手した



図-1. 2021年に踏査したルート(線)と現地調査で野生と考えられる個体群が確認された産地(丸)

*1 Katsuki, T.: Distribution and possibility of naturalization about *Cerasus leveilleana* in Kyushu Island.

*2 森林総合研究所九州支所 Kyushu Res. Center, For. & Forest Prod. Res. Inst., Kumamoto 860-0862, Japan

情報をもとに、現地に赴き、現地調査をおこなった(図-1)。成葉の形態から種同定をおこなうとともに、周辺環境についても目視で調査し、植栽木であるか、野生個体群であるか判断した。

Ⅲ. 結果と考察

福岡県については、比較的信頼性が高いと考えられる熊谷(2002, 2010)やレッドデータリスト(福岡県, 2014)の文献情報にカスミザクラは確認されなかった。また、FUや福岡県農業総合試験場資源活用研究センターにおいて200点を超えるヤマザクラの標本を確認したが、大部分はヤマザクラ(ツクシヤマザクラ *C. jamasakura* (Siebold ex Koidz.) H.Ohba var. *chikusiensis* (Koidz.) H.Ohbaを一部含む)であり、カスミザクラは北九州市の標本が1点確認されただけであった(表-1)。この個体については、同産地で植栽由来のオオシマザクラ(*C. speciosa* (Koidz.) H.Ohba)も確認されたため、植栽個体である可能性が疑われ、自生個体なのか現地調査が必要と考えられた。

佐賀県については、馬場(1964)やレッドデータリスト(佐賀県, 2010)の文献情報にカスミザクラは確認されなかった。また、

表-1. 本研究で確認された九州のカスミザクラの分布に関する文献と標本・現地調査の情報

県	分布情報
福岡	北九州(原田英子 No.1802)
佐賀	-
長崎	対馬(北村・村田 1979, 外山 1980, 初島 2004, 中西 2015, 中島一男 NAK 19827, 19831, 21065, 21204)
熊本	相良(今村・今村 2015, 熊本県博物館ネットワークセンター 標本, 現地確認)
大分	別府(初島 2004, 荒金 2005, 2006, 大分県 2011, 荒金正憲 KAG143618, 現地確認), 宇佐(現地確認), 九重(現地確認), 玖珠(現地確認)
宮崎	河原ほか 2009
鹿児島	-



図-2. 九州大学総合研究博物館所蔵の長崎県対馬市産のカスミザクラの標本(14 Aug. 1939, K.Nakasima, NAK 19831)

標本や現地調査でもカスミザクラは確認されなかった。なお、標本や現地調査において、沿岸部で野生化していると思われるオオシマザクラが多数確認された。

長崎県については、対馬市での分布情報が北村・村田(1979)や外山(1980)、初島(2004)、中西(2015)で確認されたが(表-1)、レッドデータリスト(長崎県, 2017)ではカスミザクラについての情報はなかった。また、FUで対馬産の「ケヤマザクラ」とされる4標本(中島一男 NAK 19827, 19831, 21065, 21204)が確認された(表-1, 図-2)。これらの標本は、初島(2004)などの記載の根拠となっている可能性があると考えられた。ただし、4標本の中の2標本はカスミザクラ、2標本はオオヤマザクラ(*C. sargentii* (Rehder) H.Ohba var. *sargentii*)と同定され、より詳細な検討が必要と考えられた。また、現地調査では南島原市で野生化しているオオシマザクラが多数確認された。

熊本県については、熊本記念植物採集会(1969)やレッドデータリスト(熊本県, 2019)の文献情報にカスミザクラは確認されなかったが、今村・今村(2015)で相良村の分布情報が確認された(表-1)。熊本県博物館ネットワークセンターにおいても、相良村のカスミザクラの標本が確認された。さらに現地調査において、相良村でカスミザクラの野生集団が確認された(図-3)。ツブラジイが優占する薪炭林起源と思われる二次林中に100本以上が生育していたことから、野生状態であると思われた。しかし、標高250~300mで、距離数百m程度の範囲に集中しており、植栽由来で野生化した可能性が疑われた。今村・今村(2015)は周辺の五木村や山江村にも分布していると述べており、開花時により詳細な調査が必要と考えられた。なお、小国町では多数が植栽されているオオヤマザクラが確認された。



図-3. 熊本県相良村のカスミザクラ(1 May 2021 撮影)

大分県については、初島(2004)や荒金(2005, 2006)、レッドデータリスト(大分県, 2011)で別府市のカスミザクラの分布情報が確認された(表-1)。また、KAGにおいて別府市産のカスミザクラの標本(荒金正憲 KAG 143618)が確認された。さらに現地調査の結果、別府市に加え、宇佐市と九重町・玖珠町でも確認された。なお、荒金(2005)では別府市の岳の脇と枝郷、鶴見岳南平台登山口下辺の3産地が示されている。このうち、岳の脇と枝郷では野生個体が確認されたが、鶴見岳南平台登山口下辺

では確認されなかった。岳の脇と枝郷のカシミザクラ 23 本は、2009 年に別府市の保護樹に指定され、保護対象となっている（図-4；別府市，2014）。大分県の産地では、いずれもクスギ林や二次林中に複数個体が生育しており、野生集団であると考えられた（図-5）。ただし、いずれも確認された個体数は 100 に満たず、植栽木に由来する野生化が疑われた。なお、宇佐市と九重町・玖珠町の産地は、未報告と考えられるカシミザクラの産地と考えられた。現地調査では、日出町において野生化したオオシマザクラが多数確認された。



図-4. 大分県別府市枝郷の市指定保護樹のカシミザクラ
(31 Aug. 2021 撮影)



図-5. 大分県玖珠町のカシミザクラが混在しているクスギ林
(6 Jun. 2021 撮影)

宮崎県については、平田（1984）やレッドデータリスト（宮崎県，2015）の文献情報でカシミザクラは確認されなかったが、河原ほか（2009）が作成したカシミザクラの分布図において宮崎県に数点の産地が示されていた（表-1）。ただし、この分布情報については、標本情報に基づくものではないことが担当者への聞き取りで確認され、検証が必要と考えられた。

鹿児島県については、堀田（2009）やレッドデータリスト（鹿児島県，2015）の文献情報でカシミザクラは確認されなかった。また、標本や現地調査でもカシミザクラは確認されなかった。

IV. まとめ

本研究により、九州でも大分・熊本にカシミザクラの野生集団が複数確認された。しかし、いずれのカシミザクラの集団も個体数が少なく、周囲のより自然度が高い二次林で確認されず、植栽個体から野生化したことが疑われた。複数箇所でおオシマザクラの野生化が見られたように、サクラ類の野生化は容易に生じるので、本来の自生なのか、野生化したものか、慎重に検討されなければならない。

本研究で野生集団がもっともみられた大分県は、九州の中で比較的降水量が少なく、冷涼で大陸的な気候が特徴である。カシミザクラが小集団化して遺存的に残っていることも考えられる。カシミザクラは冷温帯のミズナラ林を中心に分布する種であり、本州の冷温帯や暖温帯上部の二次林ではごくふうに見られる（星野，1998；勝木，2009）。本州だと山口県まで広く見られる種である（倉田，1976；河原ほか，2009；Global Biodiversity Information Facility，2021）。九州北部でも広くミズナラ林は残されており、カシミザクラの分布環境として問題がないように思われる。なぜ九州にカシミザクラが分布しない、あるいは分布していても少ないのか、気候以外の要因について、人為的影響を含めて検討する必要がある。

一方、本研究の調査は 5 月以降におこない、開花時期を外して葉を直接観察する必要があったことで、認識できたサクラ類の調査範囲が狭く、カシミザクラをヤマザクラと誤認した可能性も考えられる。より広範囲で確実に種同定が可能な開花時に調査をおこなうとともに、対馬や宮崎県など調査が不十分だった地域での調査をおこなうことで、より精度の高い分布情報を得ていくことが必要である。

最後に、本研究において、九州でもオオシマザクラの野生個体が数多く確認された。オオシマザクラは繁殖力が強く、東北地方の海岸林では国内外来種として増加しており、ハリエンジュと同様な侵略的な存在として問題視されることもある（勝木，2014）。オオシマザクラだけではなく、九州では分布していないオオヤマザクラが山地に植栽されていた事例も見られた。生物多様性の観点から見ると、野生化するおそれのある樹木の大量植栽は望ましくない。今後は生物多様性の保全に配慮したサクラの植栽を望みたい。

V. 謝辞

本研究において、九州大学総合研究博物館の三島美佐子氏と福岡県農林業総合試験場資源活用研究センターおよび元職員の猪上信義氏、熊本県博物館ネットワークセンターの田尻雅之氏、鹿児島大学総合研究博物館の田金秀一郎氏には、標本閲覧や資料提供に便宜を計らっていただいた。また、熊本市の今村順次樹木匠と相良村には、現地調査に協力して頂いた。その他の関係者を含め、この場を借りて感謝する。

引用文献

荒金正憲（2005）大分県の植物 15：5-10

- 荒金正憲 (2006) 豊の国大分の植物誌 増補, 491 pp, 私家版, 大分
- 馬場胤義編 (1964) 佐賀県生物誌 植物篇シダ植物 種子植物, 141 pp, 佐賀県理科教育振興会, 佐賀
- 別府市 (2014) カスミザクラ. https://www.city.beppu.oita.jp/seikatu/kankyogomi/shizenhogo/seibutsu_sakura.html (2021年10月24日利用)
- Global Biodiversity Information Facility (2021) *Prunus leveilleana* Koehne. URL: <https://www.gbif.org/species/3021284> (2021年10月24日利用)
- 福岡県 (2014) 福岡県の希少野生生物—植物群落・植物・哺乳類・鳥類 一. URL: <https://www.fihes.pref.fukuoka.jp/kankyo/rdb/> (2021年10月24日利用)
- 初島住彦 (2004) 九州植物目録, 343 pp, 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島
- 平田正一 (1984) 宮崎県植物誌, 377 pp, 宮崎日日新聞社, 宮崎
- 星野義延 (1998) 東京農工大学農学部学術報告 32: 1-99
- 堀田 満 (2009) 鹿児島県植物研究会誌 1: 1-12
- 池田 博ほか (2016) 改訂新版 日本の野生植物 3 (大橋広好ら編集), 平凡社, 東京, 23-88
- 今村順次・今村能子 (2015) Tree Doctor 22: 58-61
- 鹿児島県 (2015) 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生植物について. URL: <http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashikankyo/kankyo/yasei/reddata/plant-list3.html> (2021年10月24日利用)
- 勝木俊雄 (2009) 日本樹木誌 1 (日本樹木誌編集委員会編集), 日本林業調査会, 東京, 215-226
- 勝木俊雄 (2014) 生物の科学 遺伝 68: 390-394
- 勝木俊雄ほか (2018) 茨城県自然博物館研究報告 21: 81-89
- 河原孝行ほか (2009) 日本樹木誌 1 (日本樹木誌編集委員会編集), 日本林業調査会, 東京, 727-760
- 川崎哲也ほか (1993) 日本の桜, 383 pp, 山と溪谷社, 東京
- 北村四郎・村田 源 (1979) 原色日本植物図鑑 木本編 II, 545 pp, 保育社, 大阪
- 熊谷信孝 (2002) 貫・福智山地の自然と植物, 235 pp, 海鳥社, 福岡
- 熊谷信孝 (2010) 英彦山・犬ヶ岳山地の自然と植物, 287 pp, 海鳥社, 福岡
- 熊本県 (2019) レッドデータブックくまもと 2019. URL: <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/52/50813.html> (2021年10月24日利用)
- 熊本記念植物採集会 (1969) 熊本県植物誌, 436 pp, 長崎書店, 熊本
- 倉田 悟 (1976) 原色日本林業樹木図鑑 5, 238 pp, 地球社, 東京
- 宮崎県 (2015) 宮崎レッドデータ 2015. URL: <https://www.pref.miyazaki.lg.jp/shizen/kurashi/shizen/page00193.html> (2021年10月24日利用)
- 三好 学 (1921) 櫻花概説, 102 pp, 芸艸堂, 東京
- 長崎県 (2017) 長崎県レッドリスト (2011) 中間見直し. URL: <https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kurashi-kankyo/shizenkankyo-doshokubutsu/rarespecies/reddata/298016.html> (2021年10月24日利用)
- 中西弘樹 (2015) 長崎県植物誌, 390 pp, 長崎新聞社, 長崎
- 大場秀章 (1989) 日本の野生植物 木本 I (佐竹義輔ら編集), 平凡社, 東京, 186-198
- 大分県 (2011) レッドデータブックおおいた 2011. URL: <https://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/index.html> (2021年10月24日利用)
- 佐賀県 (2010) レッドデータブックさが 2010 植物編. URL: <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00314125/index.html> (2021年10月24日利用)
- 外山三郎 (1980) 長崎県植物誌, 312 pp, 長崎県生物学会, 長崎 (2021年11月14日受付; 2021年12月13日受理)